

事業概要

ラグビーワールドカップ2019日本大会の結果、ラグビーをはじめとしたスポーツに対する全国的な機運（スポーツへの関心・ニーズの増大、交流・インバウンド等による地域産業の活性化等）が高まっており、この機会をラグビー等の振興に活かすことが重要です。

同大会のレガシーとして時限的に自治体が所有するスポーツ施設の新築・改築等を支援することにより、子供や地域住民がラグビーを行う、もしくは接する機会を創出し、日本におけるラグビーの更なる発展を図るものです。

対象 全国の各都道府県・市区町村が所有する公立社会体育施設

整備内容 ラグビー場の新改築、既存のラグビー場の改修又は既存の運動場等をラグビー場として使用できるようにする改修
ラグビー競技に使用されていない時は、その他の競技に活用していただくことも可能です。

補助率 1 / 3



※芝生の貼替えイメージ

【スポーツ庁 スポーツ庁】では【 JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION 日本ラグビーフットボール協会(JRFU)】や【 JAPAN SPORT COUNCIL 日本スポーツ振興センター (JSC)】等と連携してRWC2019のレガシーに取り組んでいます。

ラグビー場の整備が行われた地方公共団体においては、指導者／選手の派遣、教室の開催、ラグビ一体験会の開催、地域の競技会での利用など、JRFUにおいて検討しますので、是非この機会に本整備を積極的に活用ください。

また、地方自治体が行うスポーツ大会の開催やラグビーゴールの設置などは日本スポーツ振興センター（JSC）において助成を行っています。



※沖縄県で行われたエディー・ジョーンズ前日本代表監督による指導

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会（JRFU）によるレガシー事業

ラグビー場では試合はもちろんのこと、体験会や放課後ラグビー、スクール活動、指導者講習会、国際交流イベントなど様々な取り組みを行っています。

■全国一斉ラグビー体験会



- ・各ラグビースクールで体験会を開催
- ・横浜市などRWC201912開催都市が開催告知協力
- ・RWC2019後の秋に行われた体験会では、全国で約18,000人の子どもたちが参加。

■タグラグビーイベント



- ・タグラグビーで男女年齢を問わず一緒にプレーすることができる。
- ・神戸市、豊田市がRWC2019のファンゾーンで実施。
- ・運営には専門学生などの学生も参加。

■国際交流大会



- ・アジアラグビー交流フェスタ
- ・福岡県・福岡市
- ・アジア7か国から92名（中学生年代）が参加
- ・7人制ラグビー／国際交流

“Impact Beyond”
JRFU主催ラグビー体験会 参加者のこえ



同じ目標に向かう友達も沢山出来て、練習日を親子共々楽しみにしています。

小2息子と年長の娘がそれぞれ3歳からラグビーをやっています。チーム競技のラグビーに幼い頃から親しむことで、同年代の仲間、その保護者やコーチの方々と触れあう機会をたくさん得ることができ、そのおかげで「人とのふれあい」に物怖じすることのない子どもに成長させていただいたと感じております。

ラグビーは身体をぶつけあう希少な団体球技であり仲間との結束、相手を思いやる気持ちを育み、子どもたちのコミュニケーション能力を確実に高めています。

（8歳男子 5歳女子 保護者）

- ① 日本スポーツ振興センターでは、地方自治体が実施するラグビー教室の開催やラグビーゴールの設置等への助成を行っています。
- ② JRFUと連携したラグビー教室等も助成対象となります。

③ 地方公共団体スポーツ活動助成
(「地域スポーツ活動推進事業」の事例)

助成対象事業	助成対象者	助成割合
・スポーツ教室、スポーツ大会等の開催	都道府県 市町村	4 / 5
・大型スポーツ用品の設置	都道府県 市町村	4 / 5



- ④ ラグビー教室の開催などの普及イベントが、「スポーツ教室、スポーツ大会等の開催」で助成対象となります。



- ⑤ ラグビーゴール (可動式) の設置が、「大型スポーツ用品の設置」で助成対象となります。

◆スポーツ庁 参事官（地域振興担当）施設整備係（03-5253-4111(内3934)）

